

Relief [リリーフ]

CONTENTS

- 公募助成事業について
- AED訓練器等助成事業について
- 上智大学グリーンケア研究所活動紹介
- 2020年度の財団事業について

2020
SEPTEMBER
Vol. 40



公募助成事業について

公募助成事業とは

事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケア等、「いのち」を支える身近な活動や研究を広く募集し、助成を行っています。近畿2府4県に活動拠点、研究拠点のある団体および研究者の方に対し、グリーンケア等の心のケアをはじめ、リハビリテーションといった身体的ケア、事故・災害後の支援活動、そしてお互いが助け合うために必要な地域コミュニティやネットワークづくりなど、「安全で安心できる社会」実現につながる様々な分野の活動および研究に支援を行っています。

これまでの助成実績

これまで当財団では、様々な分野の活動・研究に助成を行っており、採択率はこれまでの通算で活動（特別枠含む）は42%、研究は25%となっています。

※激甚化する自然災害に対して、近畿2府4県の枠を越え、活動助成（特別枠）として支援。これまで東日本大震災のほか、平成26年広島市土砂災害、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）等に対する被災者・被災地支援活動に助成を行っています。

○助成実績（2010～2020年度）

助成区分	件数	助成金総額
活動	297件	1億9千万円
活動（特別枠）※	145件	9千万円
研究	130件	2億2千万円
合計	572件	5億円

○助成実績（分野別）

分野/件数			
心身のケア関連	174件	防災関連	201件
救命関連	49件	復興関連	70件
事故防止関連	44件	その他	34件
合計		572件	



子どもを亡くした家族に対して、カフェ形式のわかちあいの場等による心のケア支援の実施



障がいを持つ方への心肺蘇生やAEDを使った救命講習会の実施



事故の風化防止と安全な社会の実現のための講演、音楽イベントの開催



地域防災能力を高めるためのドローンを用いた避難防災訓練の実施



被災地でのコミュニティ復興を目指した若者と地域の方々の交流の場づくり（平成26年広島市土砂災害特別枠）



地震時における列車乗客向けの効果的な避難についての研究

○助成先からのお声（被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」）

団体紹介

おたがいさまプロジェクトは、西日本豪雨で被災した地域の復興支援を目的に発足した神戸のボランティア団体です。被災地の仮設住宅や児童館で、子ども支援やサロン活動、神戸で写真洗浄のボランティア活動を行っています。



大竹 修さん

公募助成へ応募したきっかけ

西日本豪雨で被災した倉敷市真備町の映像を見た時、いてもたってもいられずボランティア団体を立ち上げて、復興支援活動を始めました。手探りの状況で助成先を探していた時、活動（特別枠）を助成しているJR西日本あんしん社会財団のホームページを拝見し、応募しました。

現在の活動状況

2019年度助成事業で岡山県倉敷市真備町にボランティアバスを合計7回出し、仮設住宅で子ども達に笑顔を届け、被災者の方々に耳を傾けることができました。今年度は新型コロナの影響下で、規模の縮小、活動の延期などがありますが、支援団体と連携をとり、対策を取りながら被災地に寄り添っています。「次はいつ来てくれるの?」という子ども達の言葉が何よりも元気がです。これからも子供たちの笑顔のために、そして被災者の心に寄り添える活動を続けていきます。

年間スケジュール



2021年度公募助成募集のお知らせ

- 助成テーマ**
 - 事故、災害や不測の事態に対する備えに関する活動及び研究
 - 事故、災害や不測の事態が起こった後の心身のケアに関する活動及び研究
 - 事故、災害等の風化防止に関する活動及び研究
 - 「東日本大震災」及び「平成30年7月豪雨」（西日本豪雨）による災害に関する被災地・被災者支援活動〔特別枠助成〕
- 応募要件**
 - 〔活動助成〕近畿2府4県に拠点のある非営利民間団体（法人格の有無不問）募集開始時点において1年以上の継続的活動実績のある団体 ※特別枠助成は別途募集要項参照
 - 〔研究助成〕近畿2府4県にある大学、研究機関等に所属している研究者
- 助成の特長**
 - ◆ 助成金は活動及び研究の開始前（2021年3月下旬）にお渡しします！
 - ◆ 成果発表会では他の助成先団体や研究者との交流を図ることができます！
- 助成期間** 2021年4月1日～2022年3月31日までの1年間
- 助成金** 活動1件 **70万円**以下 研究1件 **200万円**以下
- 応募期間** **2020年10月1日（木）～ 11月16日（月）**
- 募集要項** 募集内容の詳細や助成団体の活動はホームページ（<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>）でご確認ください。

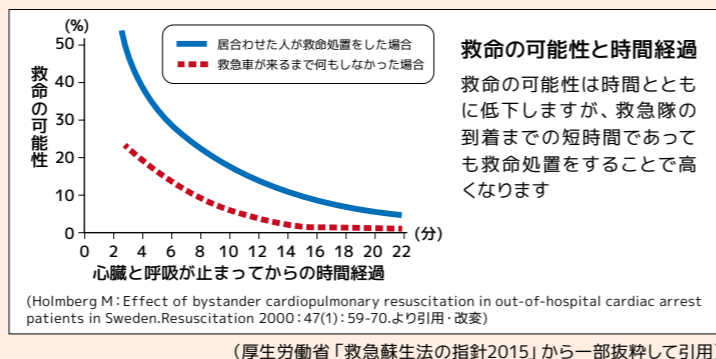


AED訓練器等助成事業について

救命処置の重要性

突然の心停止やこれに近い状態になった人がいた場合、周囲に居合わせた人が行う救命処置は極めて重要であり、その重要性については、以下のとおりとされています。

心臓と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下しますが、救急隊を待つ間に居合わせた市民が救命処置を行うと救命の可能性が2倍程度に保たれることがわかっています。わが国では119番通報をしてから救急車が現場に到着するまでにかかる時間は全国平均8.6分(平成26年)であり、救急車が現場に到着してから救急隊が傷病者に接触するまでにはさらに数分を要することがあるので、市民による一次救命処置が社会復帰の鍵になります。



一般市民による心肺蘇生(AEDの使用含む)実施における社会復帰率

2004年7月1日より、一般市民によるAED(自動体外式除細動器)の使用が認められ、市中に多くのAEDが設置されました。総務省消防庁『令和元年版 救急・救助の現況』によると、2018年中において一般市民がAEDを使用し除細動を実施した場合の1ヶ月後生存率は55.9%、1ヶ月後社会復帰率は48.2%であり、突然の心停止に対してAEDの効果が大いことが分かります(一般市民が心肺蘇生を実施しなかった場合の、1ヶ月後生存率は9.0%、1ヶ月後社会復帰率は4.5%)。

心停止で倒れた人の社会復帰率を向上させるためには、市民による適切な心肺蘇生とAED使用の普及を進めることが必要であるといえます。

AED訓練器等助成事業

当財団ではひとりでも多くの「助かる命」を救うため、救命処置の更なる普及を図るべく、救命処置の啓発活動を積極的に行う団体を募集し、AED訓練器と訓練用人形を助成しています。



助成提供器具(訓練用人形、AED訓練器)



助成先団体の活動の様子(講習会)



助成先団体の活動の様子(イベントブース)

これまでの助成実績

2015年度より、公募によるAED訓練器等助成事業を実施し、地域で活動されているNPO法人や自治会、学校や一般企業など多数の団体やグループに助成をしています。

○助成実績(2015~2020年度)

団体数	提供器具数	1団体あたり提供器具数
64団体	126セット	約2セット

○助成実績(区分別)

ボランティアグループ	16団体	社会福祉法人	5団体
学校	11団体	防災士グループ	3団体
自治会	9団体	一般企業	2団体
NPO法人	8団体	他	10団体

○助成先からの声(Human Relations SHIN)

団体紹介

Human Relations SHINは、人と人との関係を大切にし、円滑なコミュニティ形成を目的とし、減災活動を目指すグループです。尼崎市を中心に現在スタッフ8名で活動しており、「普通救命講習」や「防災学習」の開催、又地域行事に参加しております。



新山 千恵さん

応募したきっかけ

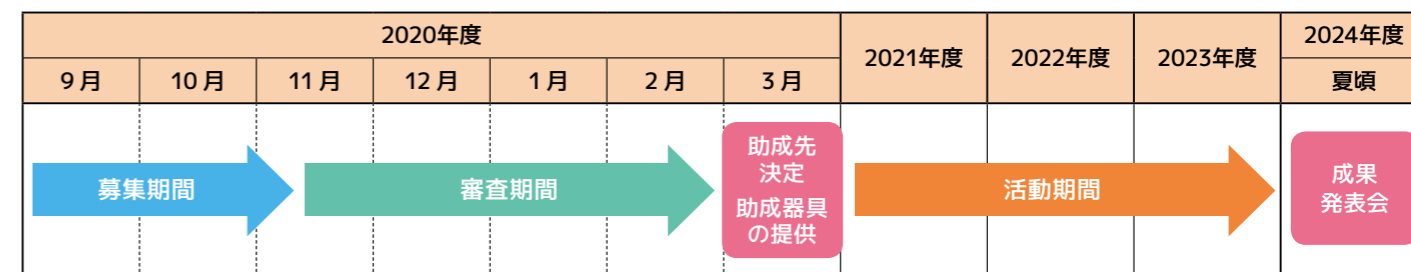
普通救命講習の重要性を感じ、初めは個人で訓練用人形やAED訓練器を購入し、不足した器具を消防署よりお借りしておりました。2017年に、知り合いの防災士からJR西日本あんしん社会財団のAED訓練器等助成事業をご紹介いただき、2018年度に応募を行い、助成器具を提供していただきました。また、知り合いのお子さまの事故の影響もあり、乳幼児を対象とした救命講習を更に普及していけたらという思いが強くなり、2020年度は乳児訓練用人形などを追加で応募し、再度、助成器具を提供していただきました。

提供器具の活用方法

以下の講習会等で助成していただいた器具を活用しております。

- ・普通救命講習I 成人(一般市民や地域の介護施設スタッフの方を対象)
- ・普通救命講習III 乳幼児(一般市民・ボーイスカウトスタッフ・社協などファミリーサポートの方を対象)
- ・応急手当普及員を対象とした学習会及び他団体の方との研修会
- ・地域イベントにおけるブース出展等での救命普及活動

スケジュール



2021年度AED訓練器等助成事業募集のお知らせ

- 応募要件**
- 近畿2府4県に拠点があり、同エリアにおいて救命処置の普及活動を行っている団体及びグループ
 - 救命に関する指導資格者が在籍している団体及びグループ
 - 講習会を中心とした明確な活動計画があり、積極的な普及啓発に取り組む団体及びグループ

提供器具 AED訓練器、訓練用人形

募集期間 2020年9月1日(火)~11月9日(月)

募集要項 募集内容の詳細や助成団体の活動はホームページ(<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>)でご確認ください。

ポイント

- ・AED訓練器はフィリップス社製を予定しており、訓練用人形はレールダル社製を予定しています。
- ・訓練用人形については、成人人形、小児人形もしくは乳児人形を提供対象とし、それらのうち希望する人形を提供します。
- ・提供器具は2021年3月下旬にお渡しします。
- ・活動報告期間は3年間(2021年4月1日~2024年3月31日)となりますが、以降は提供したAED訓練器等を返却していただく必要はありません。
- ・講習会等の開催にあたり、厚生労働省等による最新の指針やガイドラインなどを参考とした感染防止策を講じていただき、安全な講習会の開催をお願いします。



上智大学グリーフケア研究所 活動紹介

当財団では「こころ」「いのち」の問題に取り組む団体の活動に助成しています。その一つに「上智大学グリーフケア研究所」があります。当財団は上智大学グリーフケア研究所が行っている「グリーフケア」の実践に携わる人材養成講座に対して助成しています。今回は、修了生による実践・研究発表会ならびに活動の様子をお伝えします。

グリーフケア研究所とグリーフケア人材養成講座について

グリーフケア研究所は、2005年4月25日にJR西日本が発生させた福知山線列車事故を契機に、事故のご遺族の方々をはじめ、大切な人を亡くした悲嘆者に対するグリーフケアの実践に役立つように、日本初のグリーフケア専門の教育研究機関として、2009年4月に聖トマス大学に設立されました。

2010年4月、上智大学に移管され、大阪サテライトキャンパス(大阪市北区)と四谷キャンパス(東京都千代田区)の2箇所で開催しています。

グリーフケア人材養成講座は、グリーフケアの実践を遂行できる専門的な知識・援助技術を備えた人材の育成を行うための講座です。

「グリーフケア人材養成課程(2年制)」は、グリーフケア、スピリチュアルケアなどのケア提供者となることを目指す方が最初に受講する課程であり、グリーフケアの理論や宗教学などの講義、遺族会や患者会等への訪問実習などが行われます。

修了生は医療・福祉・教育・宗教など様々な分野で活躍されています。



大阪サテライトキャンパス

「グリーフケア人材養成課程」の一部科目紹介

- 「グリーフケア原論」……グリーフケアとは何かについて全体像を学びます。
- 「宗教学」……原始から現在に至るまでのさまざまな宗教の思想と歴史を学びます。
- 「グリーフケア援助講習」…グループワークをとおして、ケアの援助技術について実践的に学びます。
- 「臨床訪問実習」……少人数のグループに分かれて遺族会や患者会等を訪問し、実際のグリーフケアの現場を体験します。

第7回 上智大学グリーフケア研究所(東京・大阪) 実践・研究発表会の開催

2020年9月5日(土)に東京四谷キャンパスと大阪サテライトキャンパス合同で「グリーフケア人材養成講座」の修了生による実践・研究の発表会が開催されました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、オンラインで開催され、東京9組・大阪4組の計13組の方々が発表を行いました。修了生からは、それぞれの立場でこれまでのグリーフケアやスピリチュアルケアの実践を通し感じたことや得られたこと、研究の成果などが発表されました。

緩和ケアを提供する病院や特別養護老人ホーム、障がい者施設のほか、学校や保育施設まで、発表された修了生の活動の場は多岐にわたっており、この研究所で学んだことが様々な場所で必要とされていることを感じました。

また、仕事やボランティアなどのそれぞれの役割において、学んだ成果を発揮してケアを必要としている方の役に立ちたいという、強い意欲と使命感も感じました。

発表後は、「危機の時代のグリーフケア・スピリチュアルケアの現場と課題」と題してシンポジウムが行われ、修了生からの発表をもとに、研究所の教員などからも活発な意見がなされました。

日本全国から約300名が参加されたほか、2グループの同時開催や「チャット機能」を利用した質疑応答も活発に行われるなど、オンラインのメリットも活かした大変盛況な発表会でした。

発表内容の例

- 死別の悲嘆から学ぶことについて、具体的な事例を通じた考察
- ボランティア活動を通じた被災者支援のあり方の考察
- 教育現場におけるスピリチュアルケアの必要性について
- 病院や介護施設での傾聴活動の実践状況について

グリーフケア人材養成講座(大阪) 修了生の活動紹介

今回、大阪サテライトキャンパスにて「グリーフケア人材養成講座」を修了され、それぞれの道で活動されている様子をご紹介します。

にしおか しゅうじ 西岡 秀爾さん

2009年度～2011年度在籍
曹洞宗崇徳寺副住職、死別の悲しみを分かち合う会「ともしび」スタッフ
大阪府立大学社会福祉学部卒、花園大学准教授を経て、現在、上智大学グリーフケア研究所客員所員。関西学院大学大学院人間福祉研究科大学院研究員、大阪府立大学・四天王寺大学非常勤講師



人材養成講座へ応募したきっかけ

僧侶は悲嘆を抱える方(特に遺族)と出会う機会が多いのですが、本当に寄り添えているのか忸怩(じくじ)たる思いを抱いていました。そこで知識としてではなく、「グリーフケア」とは一体どのようなものなのかを掴みたいと思い、研究所の門をたたきました。

人材養成講座の感想はいかがですか

研究所での3年間は、決して「グリーフケア」のノウハウを詰め込む場ではありませんでした。深いグリーフ(悲嘆)を抱える人の傍らで腰をすえてお話をうかがうためには、徹底した「自己理解」が欠かせないことを学びました。成育歴や受講生同士のグループワークなどを通して、自らのバイアス(偏り、聴き癖、個性)に気づかされると同時に、日常では得難い深い心の交流により自らの傷(グリーフ)が癒えていく体験を重ねることで、おのずとグリーフケアの本質に触れることのできる場でした。

受講した内容をどのように実践で活かしているか これからどう活かしていきたいかを教えてください

研究所での温かい心の触れ合いは、「そのままの自分」が受けとめられ、心が軽やかになる時間でした。そして、「寄り添われる」ことを通して、「寄り添う」ことを学んだと実感しています。その有難い体験を少しでも社会還元したいと思い、研究所の仲間たちと2012年から月1回、「死別の悲しみを分かち合う会・ともしび」という場を設けました。集う方々は、「そのままの自分」が受け入れられるひとときを過ごすことで、これから歩む力を得ておられるのではないかと感じています。これからも、目の前の一人ひとりにそっと寄り添い、「ひとりで苦しみを抱えこまなくてよい社会」を築く一助となるべく、ささやかながらも精進してまいりたいと思います。



よしづみ すみこ 吉積 須美子さん

2012年度～2013年度在籍
日本スピリチュアルケア学会 スピリチュアルケア師(認定)
ボランティア活動家。公立病院の緩和ケア病棟でスピリチュアルケアボランティアを6年、岩手県釜石市で東日本大震災被災者支援団体のこころのケアボランティアを5年続けている。



人材養成講座へ応募したきっかけ

2011年の東日本大震災後、多くのボランティアが現地に駆けつけましたが、私は体力に自信がなく行くことができませんでした。何かできることはないかと考えていた時に上智大学グリーフケア研究所の存在を知り、グリーフ(悲嘆)について学ぶことで次の災害には何かできると思い入学を決めました。

人材養成講座の感想はいかがですか

グリーフケア論・スピリチュアルケア論・死生学・宗教学・臨床心理学・精神医学・心身医学・臨床倫理学・NPO論など、グリーフケアを理論と実践両面から徹底的に学びました。実習ではケアされる経験を重ね「ケア」とはどういうことを学びました。また人材養成講座で得た多方面の「学びの仲間」は、人材ネットワークとして今も大変役に立っています。

受講した内容をどのように実践で活かしているか これからどう活かしていきたいかを教えてください

講座を修了後現在まで、公立病院の緩和ケア病棟でがん患者様やご家族様のお話をうかがう活動(傾聴)と、岩手県釜石市において東日本大震災で被災された方の見守り活動をしています。どちらも基本は相手のお話を聴きます。時には泣きながら時には笑いながら、同じ話でも何回でも話していただけて話していただく。それによって「『こころ』が軽くなる」ことを目指します。「話すこと」は「離すこと」だと実感しています。そして、少し荷物(辛い思い)を下ろすことで本来の自分を取り戻していける姿を沢山見せていただきました。今後、新型コロナウイルスによるグリーフも様々な形で表れてくることでしょう。我々が必要とされる「人や場面がある」と、今から備えておきたいと思っています。



2021年度グリーフケア人材養成課程/2年制(大阪) 受講生募集について

出願期間 2020年11月16日(月)～2021年1月22日(金) 募集人数 36名 受験料 30,000円

お問い合わせ先 上智大学グリーフケア研究所 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-12-8 サクラファミリア2階
E-mail: i-grief@sophia.ac.jp
電話番号: 06-6450-8651 ※お問い合わせの際はEメールをご活用ください

新型コロナウイルス感染症への対応

当財団では、多様な観点から「いのち」をとりあげ、自らを見つめ考える機会を多くの方々に提供することを目的に、「いのちのセミナー」を開催しているほか、地域の安全構築につながるテーマを選定し、広く市民の方々に参加していただける「安全セミナー」を開催しています。

これらのセミナーにつきましては、新型コロナウイルス感染症の感染が広がっている現状を踏まえ、参加者の皆さま、ならびにご講演いただく講師の方々の「安全・安心」を最優先し、会場での開催について中止させていただくこととしました。

また、救命処置の普及啓発を目的とした「救急フェスタ」につきましても、「3密」（密着・密接・密集）を招くことから、同様に今年度は中止とさせていただきます。楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ありませんが、何卒ご理解を賜りたく存じます。

なお、「いのちのセミナー」につきましては、Webでの実施の可否を含めて検討してまいりますので、決まりましたら財団ホームページ等にてご案内させていただきます。

「小・中学生『いのち』の作文コンクール」の開催

「いのち」を大切に作る社会づくりに少しでもつながればとの思いを込めるとともに、将来を担う子どもたちに、「いのち」についての作文をつくることを通じて、「いのち」の大切さを考える機会を提供できればと考え、昨年度に引き続き、「小・中学生『いのち』の作文コンクール」を開催することといたしました。

近畿2府4県に在住・在学の小・中学生を対象に、「いのち」をテーマにした作文を募集した結果、昨年度の約4,600作品を上回る沢山の応募をいただきました。ご応募くださった皆さま、ありがとうございました。

選考結果につきましては、財団ホームページ等にて発表させていただくとともに、一部の作品は来春発行のReliefでもご紹介させていただきます予定です。

○今後の予定

11月	12月	1月
最終選考委員会	入賞者への通知	表彰式(予定)



アンケート実施中

毎号、皆様からご好評いただいておりますReliefにつきまして、いつもご感想をお聞かせくださり、ありがとうございます！今号についてのご意見やご感想もお待ちしております。

(<https://www.jrw-relief-f.or.jp/enquete/>)



編集後記

6月に着任したとものです。よろしくお願いたします。まもなく2021年度公募助成の募集が始まります。これをきっかけに「いのち」を支える活動や研究をされている皆さまとご縁ができることをうれしく思っております。どうぞよろしくお願いたします。(とも)

広報誌「Relief」 2020年9月号(vol.40)

【表紙写真：2020年度公募助成団体の活動の様子】

Relief(リリーフ)には「ほっとする、安堵。安心」といった意味があります。

JR西日本あしん社会財団は、福知山線列車事故の反省の上に立ち、設立されました。「安全で安心できる社会」の実現に少しでもお役に立てるよう、事故や災害等で被害に遭われた方々の心身のケアに関わる事業や、地域社会の安全構築に関わる事業などに取り組んでいます。

編集発行/公益財団法人JR西日本あしん社会財団

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 TEL:06-6375-3202 ホームページ:<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>

ホームページ



Facebook

